

令和4年度第1回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和5年5月26日(木) 10:00から12:10まで
場 所	蒲郡市役所 304会議室
出席者	(委員) 17名出席 ※別紙出席者名簿のとおり (事務局) 子育て支援課: 次長、主幹、主幹、係長、主事、主事補
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第1回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・ 資料1 子ども・子育て支援事業計画の令和3年度進捗状況の点検・評価について ・ 資料2 次世代育成支援行動計画の進捗状況について ・ 資料3 令和4年度子ども・子育て会議の日程(案)について ・ コンシェルジュだより

議事: (進行) 事務局 高橋晃健康福祉部子育て支援課長

- 健康推進課長(代理岡本保健師)
- 学校教育課長 欠席
- 資料の確認

1 あいさつ

(渡辺会長) こんにちは。この会議に参加させていただくようになりまして、5年目を迎えました、渡辺充江です。よろしくお願いいたします。以前は教員をしております、まだ当然子どもたちを育ててきて、やっぱり変わってきたんですけれど。保育に関しては本当に、もう5年過ぎたのに、まだまだわからないことが現状でございます。皆様のいろんなご経験のご意見をいただいてこの会議を充実したものにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 健康福祉部長あいさつ

(宮瀬部長) 今年度から新たに健康福祉部に、人事異動で参りました。健康福祉部長の宮瀬と申します。よろしくお願いいたします。子育て支援でございますが、市の最重要施策の一つとして位置付けられております。事務局となっております子育て支援課だけではなく、委員として参加されている皆様方、それから福祉課、健康推進課、それから運営委員会始めまして、それは市全体で、組織横断的に取り組みまして、子どもファーストに基づいて、子育てしやすい最適な環境設備、整備に努めまして、行政と市民の皆様が一緒になったワンチームでの子育て支援施策の推進を目指し、実施していくところでございます。この子ども・子育て会議は、子育て支援の各種事業が円滑に実施できるかどうか、委員の皆様にご点検・評価していただきまして、改善のご意見をいただきます場といたしまして、本市の子育て支援の中核をなす会議体となっております。本日、議員の皆様におかれましては、点検・評価していただく計画は、第2期、子ども・子育て支援事業計画の令和3年度からということになりますので、ご承知おきください。今年度は、新たに9名の方に委員に就任していただきました。新たな視点からご意見をちょうだいいたしまして、引き続き充実し

た会議になりますことをお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞ
よろしく申し上げます

3 委員の紹介

○事務局 高橋子育て支援課長より説明

4 「蒲郡市次世代育成支援行動計画」、「蒲郡市子ども・子育て支援事業計画」について

○事務局 高橋子育て支援課長より説明

5 議題

(1) 子ども・子育て支援事業計画の令和2年度進捗状況の点検・評価について

●評価書の見方の説明

(事務局倉橋から説明)

●事業番号1 1号認定(3歳以上保育の必要なし)

(事務局鈴木からの説明)

●事業番号2 2号認定(3歳以上保育の必要有り)

(事務局鈴木からの説明)

●事業番号3 3号認定(3歳未満保育の必要あり)

(事務局鈴木からの説明)

●事業番号4 時間外保育事業(延長保育事業)

(事務局鈴木からの説明)

●事業番号5 放課後児童健全育成事業(児童クラブ)

(事務局柴田からの説明)

●事業番号6 子育て短期支援事業(ショートステイ)

(事務局柴田から説明)

●事業番号7 地域子育て支援事業(子育て支援センター事業)

(事務局市川から説明)

●事業番号8 一預かり事業

(事務局市川から説明)

●事業番号9 病児保育事業

(事務局市川から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 事業番号8のところの6番の自己評価のところなのですが、幼稚園の預かり保育利用者の人数が昨年度に比べて992人増加したとあるんですが、それは大変だったんじゃないかしらと思ったんですけど。

(伊藤委員) 普通の日常として過ぎてたので、見ている先生はちょっと大変だったかもしれないですね。

(事務局倉橋) あさひこ幼稚園さんが一時預かり人数を増やしたことも影響しているのかなと思います。

(渡辺会長) じゃあ、あさひこさんがかなり増えたっていう。他にありますでしょうか。

(山本委員) 5番の児童クラブのところで、部活動がなくなったので、高学年の利用が増えましたよってというお話があったと思います。児童クラブもそういうお子さんの活動の場の一つだとはもちろん思うんですけども、何かこう部活がなくなって別の活動の場とかは、お子さんにとって何かあるんでしょうか。何かあればと思ひまして。

(柴田課長) それについてはですね学校教育課が主管になってですね、検討はしておるんですけど、まだ明確な答えは出てません。これはスポーツ推進課、学校教育課、今後の部活のあり方に関しては、中学生も含めてですけど、小学校は廃止されておる状況ですので、私どもの方でちょっと何かするっていうことは、現段階ではないです。ただまあ、学校教育とかでは話し合われている課題ではあります。

(渡辺会長) 地域共同活動っていうのがあって、多少そういう受け皿を少しずつ確保してくような取り組みを始めて、本当にまだ始まったとこ、今後をちょっと期待して欲しいなど。

(伊藤委員) すいません。ちょっと今の話にのっかってもいいでしょうか。小学校の子供がいるので、部活のことにに関して。先生の職場環境とか、そのワークライフバランスってのを考えても多分部活がなくなったと思うんですけど、ちょうどうちの長男が6年生でばっさりなくなったんですね。しょうがないなとも思いつつ、ただ、何か協議っていうか検討なかったのかなっていうのを思って、例えば、くるりんバスもあまりを人を乗せずに走ってますし、あとは、プラスなんかマイクロとか入れてもいいのかなって。例えば、三谷、大塚、中心部で塩津から向こうとかも合同で、ちょっと子供たちが、何か部活か何かできる環境づくりとかってのは協議できなかったのかなっていうことをちょっと思います。あと例えば学校の先生が、大変ねっていうのはすごく、思いますし、自分が中学校の時、小学校の時に本当に先生が、一生懸命お休みの日も見てくれたんだなっていうことに感謝してますけれども、ただ、部活だけだったら、定年退職をした60歳以上の、方でも多分見れるんじゃないかなっていうふうに素人目からですけど、外からだと思ってしまいうんですね。だから、やりようによってはそういう子どもの受け皿ができるんじゃないかなっていうふうに本当に勝手な思いとして、思ってしまいうんですね。でないとならば子供たちって、勉強が苦手な子もいますし、学校があまり好きじゃないっていう子も部活があるから行くっていう子、多分いたと思いますし、中学校でそういうエネルギーを発散する場所がないと、ちょっと精神バランスを崩してしまうとかね、そういう可能性も多分増えると思いますし、本当に何か受け皿を考えていただきたいなというふうには思います。すいません。失礼しました。

(渡辺会長) 柴田課長さん何かありますか。

(柴田課長) 私の回答の範疇を超えてますけども、実際その会議を私参加はしていませんが、個人的に話を聞いている中では、平日の部活動っていうのは、例えば今みたいにバスに乗せたりっていうと、集約型にすると、学校終わってから行くっていうことになるんですね。そうすると遠いところだと、どこでサッカーやるんだと、実は西浦でしかやらないとかいう話になっちゃうと、大塚の子がバスに乗っていったらもう部活の時間で終わっちゃうんですね。そういうことになってしまうのでやっぱその辺、何の競技をやるかによって場所によっても課題はあると思うんですが、そういうふう集約するとし

でもですね、やっぱり学校終わってからちゅうのが、平日だと前提になってしまうので、そこら辺は課題かなというのを聞いてます。なので、ちょっと平日は難しいのでそこに頭を悩めてると思います。休日に関してはそういうふうに、親御さんなりが送っていくちゅうことは可能かなと思いますけども。いずれにしても先ほど言った60歳定年した方たちがいるじゃないかというお話も、これも話はしてたんですけど結局その方って、夕方以降は家に帰るっていうのがお年寄りの傾向が強いので、昼間は空いてるよ。夕方にはもう帰るよっていうようなこともあるようなことは聞いてます。はい。すいません。それだけです。

●事業番号10 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分
（事務局柴田から説明）

●事業番号11 利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）
（事務局白井から説明）

●事業番号12 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）
（岡本保健師から説明）

●事業番号13 養育支援訪問事業
（岡本保健師から説明）

●事業番号14 妊婦健康診査
（岡本保健師から説明）

質疑応答

（渡辺会長） 何かありましたら、お願いいたします。

（岡本代理） すいません健康推進課の岡本です。10番のところのファミリーサポートセンターの部分なんですけど、評価は、就学児童対象部分を評価されてると思うんですけど、表のところ、令和3年度の未就学児が、利用申し込みが1,533人で、利用者数が1,100人と差があるんですが、これは利用したくてもう利用できなかった方が、このマイナス433人いるっていうことでしょうか。

（事務局柴田） はい。子育て支援課柴田です。利用できなかったというよりも、キャンセルですね。ご家庭でどうにかなった、そういう人がほとんどです。以上です。

（岡本代理） じゃあ、結構お母さん達から利用したい希望があるんですけど、この利用した人が利用できる体制が、未就学児も整ってるってことでもっとPRして大丈夫でしょうか。

（事務局柴田） そうですね。PRしても結構です。ただ、ベテランのマッチングの職員の方が、やめられて職員が新採というか新しくなりましたんで、ちょっと、マッチングの手際がちょっと悪くなってしまうかもしれませんが、まだ宣伝していただいてもいいです。

（渡辺会長） ありがとうございます。しっかりPRしていただいて、でもこれはその両方、受ける人のこれをつかう人も行かなきゃいけない事業ですか。

（事務局柴田） おねがい会員さんも、会員登録する必要がありますので、そこがちょっと壁があるのかなとは思って、まかせて会員さんの方は登録するのは当然かと思うんですけど、頼む方も登録して、それから依頼をする。敷居がちょっと高いかもしれないです。

（渡辺会長） お願いしたいってすぐにお問い合わせ出来なくて、ちゃんと登録しておかないと、出来ない

っていう。

(事務局柴田)　そうです。

(渡辺会長)　　ということだそうです、岡本さんよろしくお願ひします。いいですか。

(岡本代理)　そこは承知していて、多分すごいちっちゃい赤ちゃんがいる方とかだと、多分、登録するために外に出にくいので訪問していただいて登録していただいた方も中にはいるので、そこは、すごい動いていただいているなっていうふうにも実感しております。

(2) 次世代育成支援行動計画の進捗状況について

●資料3 次世代育成支援行動計画について事務局倉橋から説明

質疑応答

(岡本代理)　健康推進課の岡本です。すいません。今の児童発達支援のところなんですけど、本当に年々利用者が増えているなっていうことと、あと本当に出生数は減ってるんですけど、やっぱり育てにくいお子さんが年々増えているなあとというふうにも感じておまして、検診を受けた後に健診の事後相談だったり、個別の発達検査とか相談に乗る事業をやっている中で、療育が必要だっていう児童発達支援に結びつけたいなっていうお子さんがたくさんいます。例年ですと、秋ぐらいにその児童発達支援センターがいっぱいになっているっていう状況なんですけど。今年度におきましては、今、5月にもうすでに児童発達支援センターの方がいっぱい、待機待ちっていう状況になっております。また、市内では、蒲郡市民病院の小児発達外来が医療を引き受けている場所になっているんですけども、医療とその児童発達支援センターを並行していくということも大きいんですが、病院の方も、先生が今1名体制で、そこにかかるのに、今まで3ヶ月待ちだったんですけど、もう今いっぱい、先生の方から、病院にかかる子も、保健センターと一緒に、どの子結びつけるか、受診にしていっていかっていうのを検討していかなければ引き受けてもらえない状況で、なおかつ市外の子は、市民病院では受けないっていう体制を病院も取っているくらい大変って言っています。その本当に育てにくい子たちの、本当に療育の受け皿がもっとあって、本当に必要な時にお母さんたちが行きたいときに、繋がれるようになるとういことだと思います。

(山本委員)　同じようなことはもうと思っていたんですけども、今年に限っただけじゃなく、去年からも年度の頭から、にこりん児童発達支援センターも、がまごおりふれあいの場も、がまごおり子どもデイサービスも、4月からもういっぱいになっているっていう状況が続いています。何とか、保育園と併用してる保育園の様子を見ながら保育園に、なるべく大丈夫だったら早めに行かせてもらって、少し開けて、ちょっとずつ秋から入れたりと、いろいろしてるんですけども、そんな中で先ほどのうちに週4日来てる子たちも週2日ずつのグループ人もできないかなあとか。何か自分とこでできることとかを考えていたところなんです。先ほど来年の4月からもう1ヶ所、児発ができるよっていう話をいただいて、少し、10人定員と申しましてもう10人しか使えないわけではないので、もう少し使いたいときに入れるようになっていくとういことももちろん思いますけども、今年度よりは少しくなるかなと思って、お話を聞いていました。使いたいときに入れるようになっていくとういことももちろん思いますけども、今年度よりは

少しよくなるかなと思って、お話を聞いていました。

(事務局高橋) 受け入れ体制確保はすぐにはできませんので、私どもとしては、民間の療育が開設予定でありますので、ひとつの改善が見込めると考えております。

(渡辺会長) ぜひ増やしていただきたいな。

●事業全体をとおして

(鈴木委員) いつも大変丁寧に取り組まれておるなと思って感心しております。若干ですが、折しも5月13日に、子ども家庭庁、が衆議院を通過いたしまして、また新しい日本の体制ができてくるかなって思います。ただ幼稚園部門は、文部科学省にそのまま残るという形で結局子ども家庭庁今まで、厚生労働省にあった保育園機能の部分と、内閣府にあった認定こども園が内閣官房の中にできる、子ども家庭庁に移管するという、国際的に見ればまだ一本化は、ちょっと遠いというか、余地が残るといった形になりました。ですから、いろんな、もしかすると行政的な、或いは財政的な問題も少しずつ変わってくる部分が出てくるかなって思います。私もまだそこまで深く見られておりませんが、でも次の段階としてはこういう数値とか、そういうことももちろん、それが質に関わることなんですけれども、保育の質というか、今もう言っていましたようなそのやっぱり育てにくいお子さん、こう出てきて、いろんなニーズがあるけれどもここから先は質を高めていくということ、どういかにその行政を落とし込んでいけるかっていうところにあるのかなって思いながら、ただ非常に全国的に見れば非常に熱心な市、蒲郡市は決してそう大きい市ではないけれども、とても丁寧にいろんなことをやっておられるなと思いますので、一層にこの質の強化っていうのが評価できるようなシステムを作られるといいかなって思うふうになります。すいません。これ若干ですとてもいつも感心してこの評価書を眺めております。ありがとうございました。

(渡辺会長) ありがとうございました。質を高めていく評価も少し考えていく必要があるっていうことですか。

(事務局高橋) 今、この計画だと数字を追っていくことになってしまいますので、子育ての質ですね。満足度そういったものも、やっぱりしっかり気にかけて、事業というのを進めていきたいと思っています。

(3) 令和4年度子ども・子育て会議の日程について

- 資料4 令和4年度子ども・子育て会議の日程について事務局倉橋から説明

(4) その他

- コンシェルジュ日より、子育て支援ガイドブックにここに の配布説明

以上